

ムカデ（オオムカデ科）



▲写真はトビズムカデです。実物大にしてあります。

日本には、オオムカデ目、イシムカデ目、ジムカデ目の3グループ、約80種のムカデがいて、特にオオムカデ目は毒を持っていて咬まれると大変危険です。

オオムカデ目は暖地に多く生息しており、立田山野外保育センター雑草の森にも頻繁に現れます。

特徴 オオムカデ目にはトビズムカデ、アオズムカデ、アカズムカデなどがあり、いずれも体長約8センチの大型のムカデです。頭部に前肢から変形した顎があり、近づくミミズや昆虫などの獲物のニオイや振動を察知して素早く飛びかかり、この顎で捕食します（ムカデは刺すのではなく咬むのです）。その時にムカデの毒が体内に注入されます。

すみか ムカデは夜行性で、昼間は、石や倒木、植木鉢、落ち葉の下など、暗くて湿気の多い所に潜んでいます。夜になると動き始め、しばしば家の中にも侵入します。

梅雨の時期は、すみかが水浸しになるのを嫌って、昼間でも家の中に侵入することがあります。秋、気温が下がる頃には、戸外に干した洗濯物やフトンに紛れ込むこともあります。

症状 ムカデに咬まれると、ハチに刺されたような激痛を覚えますが、ヒトに致命的なダメージを与えるほどの毒量はありません。咬まれた部位の激痛、次いで腫れ、発赤、リンパ節の痛みと腫れ、ときとして全身症状として発熱がみられます。

繰り返し咬まれると、まれにアナフィラキシーショック（アレルギー症状）を起こすことがあるといわれます。▶ 呼吸困難・動悸・悪寒・めまい・吐き気・頭痛などの症状がみられる場合は、病院に行き治療を受けます。（救急車を呼んででも）

治療 毒の成分はヒスタミンや活性ペプチド等です。咬まれたら水道水などで傷口の毒を洗い流し、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏（医薬品例：ムヒアルファEX、オイラックスH軟膏、セロナ、レスタミン軟膏など）を塗ります。傷口周辺が熱を持ち、腫れがひどい場合は、水や氷、保冷剤などで冷やします。冷やせば毒の拡散を防ぐ効果があるといわれます。

症状が重い場合は、病院へ行き治療（注射や服薬など）を受けた方が早く治ります。

予防策 ムカデを見つけても決して触れないこと。服の中に入ったときは、できるだけ静かに、速やかに服を脱いで体から遠ざけます。激しい動きはムカデを刺激してしまいかねて危険です。

また、ムカデが家の中へ侵入するのを防ぐには、家の外周を取囲むように害虫忌避剤（有機リン剤、カーバメイト剤などの粉剤）を撒いておくと効果があります。



注意 毎年6月頃、雑草の森施設の外周に「虫コロリアース」（アース製薬㈱／白い粉末）を散布します。

- ・死骸や弱った状態のムカデやゴキブリ等を見かけても触れないでください。
- ・薬剤が皮膚についたときは、石鹸を用いてよく洗ってください。
- ・万一身体に異常が起きた場合は、直ちに本剤がピレストロイド系及びカーバメイト系の殺虫剤の混合剤であることを医師に告げて、診療を受けてください。